

各位

土浦一高探究学習推進室

R04 探究学習中間発表会_事後アンケート（結果）

実施日：令和4年11月18日（火）、19日（水）

場 所：土浦一高（視聴覚室）

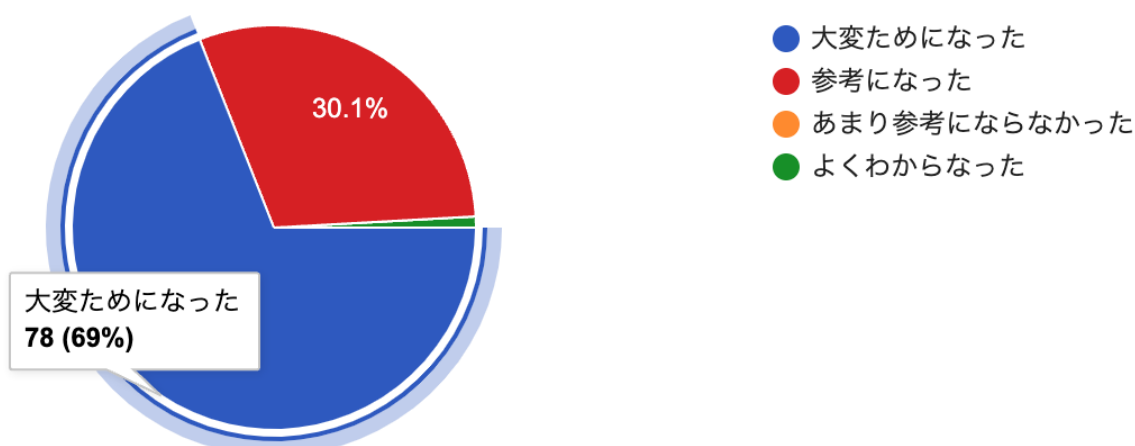
講 師：筑波大学の大学生および大学院生 のべ10名

目 的：（1）探究学習の中間発表を行い、ゲストティーチャーの大学生から助言を受ける。
（2）年度末の論文作成およびポスター発表に向けた助言を受ける。

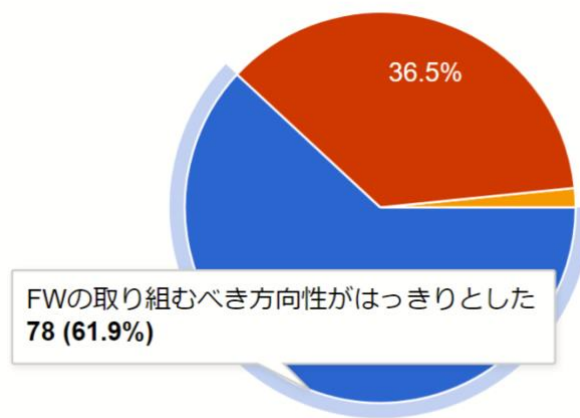
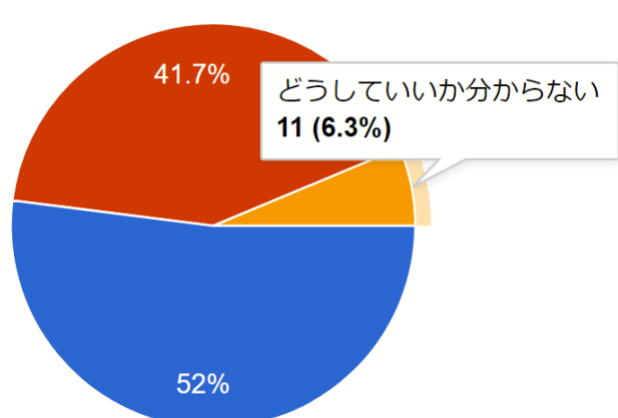
対 象：高校1年生 239名

回答数：113（回答率47.3%）

1 筑波大学の学生さんから助言を頂いた感想として最も近い感想を、一つ選んでください。

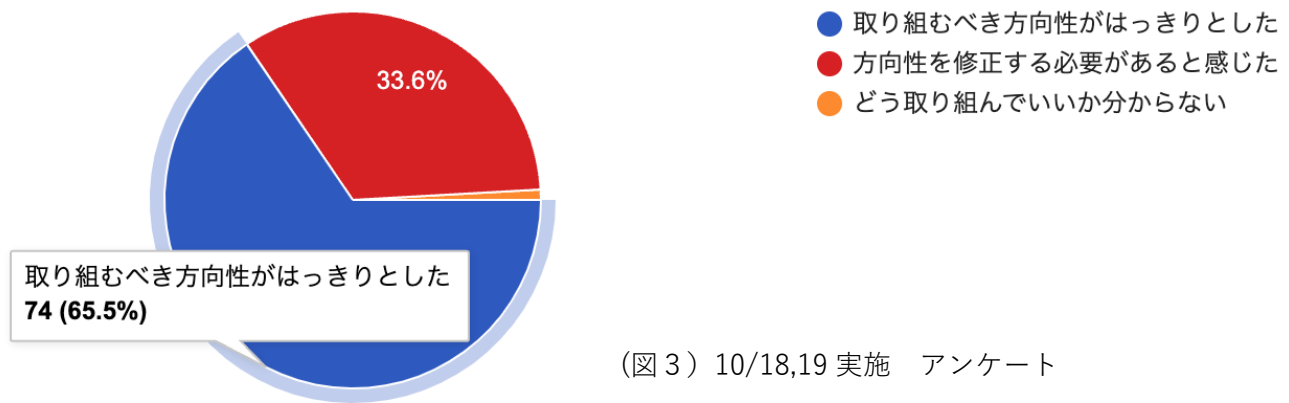


2 夏休みの探究学習におけるFWについて、本日の講座を受け、取り組むべき方向性が見えてきましたか。最も近い感想を、一つ選んでください。



（図1）5/10 実施 アンケート

（図2）7/12 実施 アンケート



(図3) 10/18,19 実施 アンケート

(考 察)

(図1～3)は、探究学習に取り組むにあたり、研究の方向性について見通しが持てているかどうかを問う項目の比較である。複数回のスキルアップ講座をとおして、狙いどおりの効果が得られたものと考えられる。

一方で、年度末のポスターおよび論文の作成に向け「どう取り組んでいいかわからない」と答えた0.9%の生徒については、丁寧にフォローすることが必要である。

3 本日の講座を聴いて、学んだこと、考えたこと、これから取り組む探究学習について、自分たちの研究にどのように生かしていくかを簡潔に入力してください。 (一部抜粋)

○先が見えなくなりつつあったところで今回のような意見を頂けたため、現在の探究の上での課題や方針を明瞭化することができよい機会だったと感じる。これからはしっかりと今回ご教示いただいた課題を追加のFWなどでしっかりと改善していきたい。

○フィールドワークが充分に出来ていなくて、これからの方向性が定まっていなかったが、大学生からの的確なアドバイスをいただき、どのようにテーマを掘り下げていくかをかなり決めることができた。プレゼンのまとめ方、発表の仕方なども教えていただけたのでとても有意義な時間だった。

○今回の自分たちのプレゼンテーションは実際に見聞きしたものをまとめることがほとんどを占めてしまっていたが、もっと深い考察を考えて自分たちの今後の探究学習でやるべき事、やってみたい事を明確にするべきだと感じた。また、ただ調べるだけでなくFWで得た知識をより身近な場面で実践的に活用する方法を考えてみたいと思った。

○フィールドワークを行うだけではなくメールや手紙などを利用してコロナによる規制を気にせずに企業等の意見を取り入れる方法もあることがわかった。

○プレゼン資料を作る際には、要点をまとめて、文章で書かないほうが良いことを学んだ。大まかな内容のみ、分かりやすく記述し、細かいところは説明の中で付加していくと良いと、アドバイスをもらった。

○大学生の皆さんから助言をいただき、自分たちでは気づけなかったような視点から改めてテーマや結果を見直すことで、改善すべき点を見つけることができた。

○今まで少し曖昧になっていた方向性が明らかになって良かった。また、実験で足りないところがあったため、もう一回追加で実験をしてみようと思った。

○フィールドワークが順調に進んでいて次に何をすればいいかはっきりしていなかったのが、課題の広げ方ともう少し詳しく調べると良いところを教えてもらうことが出来て、今後は仮説に戻って更に深めて行きたいと思った。

○最終的な結論への持っていく方が難しいと感じた。大学生からのアドバイスを参考にしながら、班のみんなと協力してこれからの探究活動に励んでいきたい。

○自分たちだけでは主観的になってしまい、分かってないことが多かったが、大学生からアドバイスをもらい、客観的にどのような方向性でいけば良いのかが学べた。テーマに対して調べた内容が少しずれていたもので、改めて何を中心として探究を行っていきたいのかを確認したい。

○実験での成功の他に、1 回目の実験での失敗したことについて触れることも効果的であるということを学んだ。

○ニートの解決案を考えるにあたり、今までは多くの人を対象にすることを考えていたが、今回ターゲットを絞る方が良いとの助言を頂けたことが大変参考になった。

○大学生からの話を聞いて自分達の班の研究仮説とフィールドワークの内容のズレを見つけていただき、成功することだけが探究でなく、失敗しても良いと言ってもらったことにより今後に活かそう。

○最初のテーマが大きすぎて、終着点が見えず、探究が行き詰まっていると感じた。これからは FW で伺った内容を生かせるような小さい探究テーマを見つけてまとめていきたい。

○アンケートをとる時は結果に偏りが出ないように一高生からアンケートをとるよりも、一高生の家族など、年代が多様になるようにした方が良いことを学んだ。

○得られた結果の活かし方が、助言をもらったことにより見えてきてよかった。また、すでに企業の発表しているアイデアなどで参考になるものをいくつか紹介していただけたため、大学生の持っていた豊富な知識に学ぶことができた。

○自分達の班を見てくれた、大学生に面白いと言ってもらえた。実験を行って、良い結果を期待しているが、実際に結果が出ないこともあるとおっしゃっており、無理して結果をもとめず、考えたことをやっていきたい。

○今日の中間発表では、探究の内容だけでなく、スライドの作り方や、発表の仕方にもアドバイスをいただけて、これからの発表にいかしていこうと思った。また内容も、次にどうするとおもしろくなるかなど、自分たちだけでは思いつかないようなことを教えていただき、これからが楽しみになった。

○異なる学部的大学生に話を聞いて貰ったが、それぞれ別の角度からのアドバイスをいただくことができたので、さまざまな分野の人からの意見をもらうことが大切であると感じた。

○実験の研究でも、より効率よい方法を考える理系的研究と、その実験からできることを普及する文系的研究の 2 パターンがあることを知ることができた。

○大学生にもっと詳細のわかるアンケートを取り直したほうが良いとアドバイスされて、もう一回アンケートを取り直したいと、今後の計画が固まって来たと思う。また、私の班に来てくれた大学生が私達のテーマにあったことを大学で研究している方だったので、興味深い情報を得ることができて貴重な経験をさせてもらった。

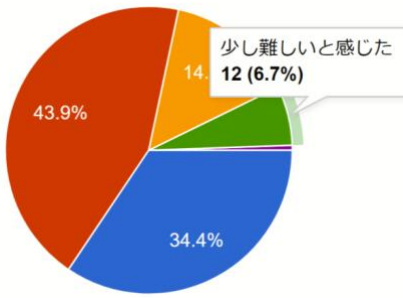
○今までは 3 つ以上の事柄を比べて一つの大きな課題を発見しようとしていたが、3 つの条件が異なりすぎるので最終的に一つにまとめようと思った。論文を読んだり、FW をしたりしてまずは方向性を定めたい。

(考 察)

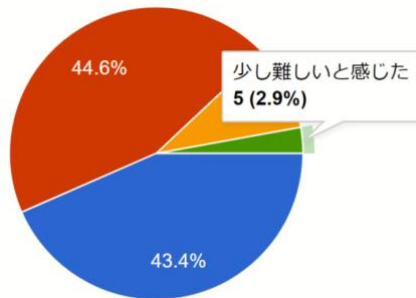
今回の中間発表会において、複数の大学生に、それぞれ異なる角度から直接助言を得ることができたことは、生徒たちにとって大変有意義なものとなったことがわかる。

また、効果的なプレゼンテーションの作り方や見せ方は、大学進学後にも必要となるスキルであることを知ったようである。

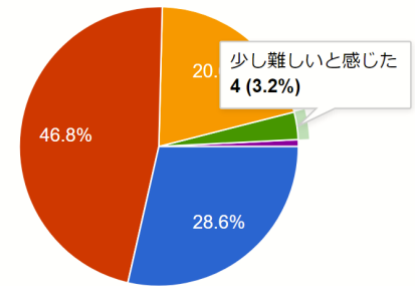
- 4 あなたは、本日の講座をととして、SDG s について興味や関心が深まりましたか。
最も近い感想を、一つ選んでください。



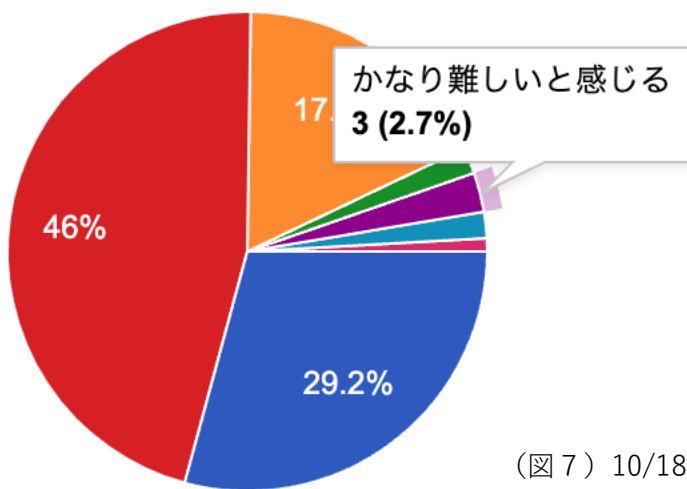
(図 4) 5/10 実施 アンケート



(図 5) 6/10 実施 アンケート



(図 6) 7/12 実施 アンケート



(図 7) 10/18,19 実施アンケート

- 興味関心が高くなった
- すこし興味関心を持てた
- 理解できた
- 少し難しいと感じる
- かなり難しいと感じる
- 少し難しいと感じた
- かなり難しかった

(考 察)

(図 4～7) は、SDG s についての興味や関心を問う項目の比較である。

複数回の講座をととして、全体として SDG s に対する生徒の理解度は十分に高まったものの、回を重ねる程に「少し難しい」「難しい」「かなり難しい」と感じる生徒の割合は、その数こそ少ないものの、むしろ増えてきた事がわかる。自分達のテーマに沿って探究学習を進めるうちに、生徒たちは SDG s の諸問題に対して解決の難しい問題点に直面したり、様々な矛盾点が存在する事に気が付くようになったと思われる。

ポスターおよび研究論文の作成に向け、たとえ結論に辿りつかなかったり、失敗したりしたとしても、彼らなりの探究結果に辿り着くことを期待したい。